



八田寿人
自民党市議員

形原温泉あじさい祭り について

問 あじさい祭りの歴史と今年の来場者の状況について伺う。

答 昭和62年、形原温泉地区への観光客誘致を目的とした景観の整備として、愛知県立安城農林高等学校の協力を得て、三ヶ根山スカイライン沿いに1万5千株、金平町の補蛇ヶ池法面に3万5千株のあじさいの植栽を行ったことが始まりである。今年の来場者は6月2日の大雨による影響が心配されたが、例年よりも開花状況が早く、ほぼ例年並みの9万人の来場を期待している。

問 今後の予定と支援拡大の計画を伺う。

答 関係者と連携しながら誘客策に取り組んでいく。開園後35年が経過しており、花の植

え替え、園内のバリアフリー化など出来ることから取り組んでいく。

問 大雨の被害と対応について伺う。

答 あじさい園地に大きな被害はなかったが、観光道路一の沢線は土砂と倒木が道を埋めている。6月末以降に工事を開始し、3週間程度で通行可能になる予想である。

問 渋滞緩和策としてあじさいくるりんバスの日曜運行を伺う。

答 各年度の6月実績からバスを利用した来場者が一定数あると推察される。現在実施している週4日運行のバス利用状況を、注視していきたい。



あじさい祭り



伊藤享佑
市政クラブ

地域強靱化に対する 具体的な取組について

問 介護事業所のBCP（業務継続計画）策定義務化について市の考え方を伺う。

答 介護保険制度の改正により、介護事業所のBCP策定が令和6年4月1日より義務化される。

本市としては未策定の事業所に対して周知や啓発、説明などを行い、定期的な指導を進めている。

地域防災・災害備蓄 について

問 要配慮者の避難について現在のどのような体制になっているのか伺う。

答 元年12月時点において、14団体23施設と「福祉避難所の指定に関する協定書」を締結している。

実際に災害が発生した際、自施設以外へ移送する可能性も含め、今後の話し合いを進めていく。

問 災害時の医療救護所対策本部について伺う。

答 4年度に「蒲郡市医療救護所対策本部設置要綱」を策定した。本部では、発災後の医療機関の被害情報を集約して救護所設置地区を判断し、医師等の参集の可否を把握の上、災害対策本部の指示に基づき救護所を設置するほか、設置後の進捗管理や愛知県等との情報共有と、人的・物的要請にかかる連絡調整を行う。



防災グッズの点検をしましょう



牧野泰広
自由クラブ

児童クラブの運営 体制について

問 正規職員の配置についての市の見解は。

答 児童クラブは、児童館長である保育士と会計年度任用職員である放課後児童支援員や補助員で運営している。低年齢児保育の需要増により、正規保育士の追加配置は難しい。教員資格保有者など新たな人材確保の面も含め効果的な職員配置を検討し、引き続き正規保育士確保にも努めたい。

療育センターの 考え方について

問 法改正による福祉型・医療型児童発達支援の一元化への対応は。

答 センターが備えるべき要件や設備、必要な人材などの情報収集をしている。当面は保健センター3階での対応を考えているが、市民病院等の医療機関と離れた位置にあり、連携が課題と考えている。

地球温暖化対策 について

問 速やかに脱炭素先行地域の計画づくりに着手する必要があると考えるが、市の考えは。

答 市民と一体でカーボンニュートラルの実現を目指す組織体制として、今年度、ゼロカーボンシティ推進室を新設した。脱炭素先行地域は、地域が一致団結してカーボンニュートラルの実現を目指す地域と認識し、本市も選定されるよう、計画づくりを考えていく。

